

多言語翻訳に見る個別言語特性（仏・西・英・独語）の言語学的考察について

「 Le petit prince を資料とした 文法・形態・統語の対照・比較研究 」

溝江 達英

## 1.0 序論

本論はLe petit prince (星の王子さま)を原資料とし、フランス語の原文に常に立ち戻りながら、フランス語からの翻訳プロセスを言語学的視点から3つの面（文法・形態・統語）に絞って対照・比較研究を行なうものである。フランス語が属す同じロマンス語派の一つであるスペイン語、また語派はゲルマン語でありながら多分にフランス語の影響を受けた英語、そしてフランス語との関連のみならず英語との対照・比較に有益と考えドイツ語もまた対象言語としている。なおドイツ語の動詞体系は上記3言語との対照において動詞認識を新たに捉え直す契機を与えてくれるものとして後の項目で詳述し、ドイツ語との参照は欠かせないものとなっている。言語Aが言語Bへと翻訳される時、言語Aの形をそっくりそのまま言語Bへと移すことは一部理論上可能であっても、すべてうまく転移されることはなく、個別言語がそれぞれの個別の特性を言語上で表現することになる。本論では言語間での相違を一つの言語資料の中で、パラレルテキストを通じその手法を示し、対照・比較の中から浮き彫りにされる個別言語特性を項目別に挙げることにする。そして項目別に多言語使用の観点を常に念頭におき、何がどのように通底し合う要素であって、またそうではないのかを言語学的な視点で縦横に論じることとする。

この研究は多言語使用の実際において、受動的（passive）な能力に供するのみならず、むしろ生産的（productive）な能力が発揮される際の躓きの石を指摘し、ヨーロッパ諸語のいずれも母語としない多くの日本人に、マクロ眼的ヨーロッパ諸語の認識かつ個別言語へ向けられるマイクロ眼的考察を示すことが本論の目指すものである。

分析メモ （ページはすべて自作プリントのページに基づく）

1-1 (第1章・1ページの略)

問題点 接続詞の使い分け

フランス語 *lorsque* *quand* との違いが表現上どういった効果があるのか？

1-1では

F) *Lorsque j'avais six ans j'ai vu, une fois,...*

E) *Cuando tenía seis años vi una vez...*

E) *Once when I was six years old I saw...*

G) *Als ich sechs alt war, sah ich einmal...*

J) 六つのとき... を見たことがあります。

プリント 9 ページ冒頭では

1 - 9

F) Quand j'en rencontrais une qui me paraissait un peu lucide,...

E) Cuando encontré alguna que me pareció un poco lúcida,...

E) whenever I came across one who seemed to me all clear-headed...

G) Wenn ich jemanden traf, der mir ein bißchen heller vorkam...

J) どうやらものわがりのよさそうな人にでくわすと

#### 疑問点 1

冠詞が定・不定形を持つように、接続詞自身にも定・不定をテンスとの連動で示しうるのかどうか？（点的な捉え方をする接続詞と線的な捉え方をする接続詞があるのかどうか？）

#### 疑問点 2

文体上の効果と語の選択の関係に、連動的な選択関係があるのではないか？

スペイン語では接続詞cuandoそのものに変化はないが、動詞の時制が異なっている。

Cuando tenía seis años vi una vez...では線過去、Cuando encontré alguna que me pareció un poco lúcida,...では点過去である。スペイン語版 2（南米スペイン語版）ではフランス語同様の線過去で統一されている。よってcuandoそのものには点的・線的過去いずれにも使われることが言えそうである。フランス語のlorsqueもquandも点・線いずれの過去にも共起可能なのだが、lorsqueは背景化を支え、statiqueな雰囲気を出すにはquandよりも有意的だと考えられる。英・独は動詞そのものだけを見れば過去形そのもので、点的・線的のアスペクト指示が見えてこない。しかし英語はフランス語がquandで示し、半過去時制であるところを、wheneverで表現することによって、反復性を浮き彫りにする。英語では反復性は動詞時制よりもむしろ接続詞選択の方に重点が置かれている。英・独は動詞の時制そのものよりは、接続詞の選択そのもの、ないしは副詞的な処理で、点・線の過去をいい表すと言えそうである。

Lorsqueが半過去（絵画的過去）となじみ、文章語的硬さ（magnifiqueの形容詞前置もその表われ）とともに、第一パラグラフ共通に背景的雰囲気を表している。それは同パラグラフ内の代名詞選択にも影響があると考えられる。

フランス語Ça représentait un serpent boa ...の主語代名詞Çaは先行のune imageを指しており、代名詞の選択という点から見ればelleが選択される可能性もありうるのだが、絵画的背景を出す為にelleではなくçaが選択されているように思われる。つまりune imageという語そのものを指すのではなく、une imageの内容をさしていると考えられるのではないか？ 東郷

(フランス語とはどういう言語か? の収録論文) で、IL/CE,ÇAの交替の問題について、ILは同一指示、CE,Çaは照応的と解釈されている。また遊離構文でのIL/CE,ÇAの例を次のようにあげている。

- a. Les enfants , ça casse tout. (子どもはなんでも壊してしまう)
- b. Mes enfants , ils cassent tout. (うちの子どもは何でも壊してしまう)

遊離構文という条件で、総称と特定で最小対立を表し得ているが、この例からも考えられるように、a文は子どもの性質、b文は子どもそのものを指している。この例に基づくなら、内容(ないしは性質)を指す場合、çaが適当だと思われる一つの例ではある。

英訳をみると、It was a picture of a boa constrictor ...であり、pictureは半過去の絵画的過去を示していると同時に、Itはimageの内容を示していると考えられる。英語はITだけではその語も内容もどちらも表現できる面があるが、フランス語・ドイツ語では交替可能もありえるし、交替すると非文になる問題でもあって一筋縄では決していかない。スペイン語では主語代名詞の多くが省略されることもあって、フランス語での問題点であると同時に、ドイツ語が抱える問題でもある。

ここでの考察はLorsque、絵画的半過去、çaの連動でフランス語では全体的に静的に描写をなしているように思われる。

1 - 1

問題点 形容詞の前置・後置の問題に関して

1-1

- F) une magnifique image
- S) una lámina magnífica
- E) a magnificent picture
- G) ein prächtiges Bild
- J) すばらしい絵

1-6

- F) une magnifique carrière de peintre
- S) una magnífica carrera de pintor
- E) a wonderful career as a painter
  
- E) a magnificent career as a painter
- G) eine großartige Laufbahn, die eines Malers ....aufgab.

## J) すばらしい仕事

フランス語とスペイン語では形容詞の位置が違っているのだが、必然的な違いではないように思われる。

島岡(フランス語統辞論 p 247)には、感情的に強調された形容詞という項目立てをし、次のように説明されている。

「ここで扱うのは、すでに述べた形の長い派生形容詞が、普通の慣用に逆らって、名詞の前に置かれる場合である。これらは感情的な強調で、形容詞はすべてアクセントをとる。意味的にも強調を表すものが多い」

**magnifique**の例もここには挙げられている。

素晴らしい宝石

**un magnifique bijou** / **un bijou magnifique**.

形容詞を前に置くのは古文調で、一つは英語の慣習に倣ったものといわれる。

他の例に

**ma sanglante mort**(私の血みどろの死) (Racine)

**une seule et obstinée et rayonnante pensée** (Mme de Noaille)

(唯一の、頑固で、輝かしい考え)

同書(p 247-249)で、位置によって意味が異なる形容詞についてこのように説明している。

「比較的形が短く、音声的にも、意味の上からも、後ろにくる名詞と一体化しやすい若干の形容詞がある。名詞の前後で、多少意味を異にするものがある。原則として後ろに来る場合が本来の、客観的な意味をもち、前に来るものは比喩的、主観的な意味を持つ」

その一例から

**un grand homme** (えらい人)

**un homme grand** (長身の人)

それに加え、中には語順によって意味を区別しない場合もあるとして

**une grande femme**

**une femme grande**

いずれも (長身の女)

以上のことから見てみると次の例もその例である。

1-4にある例

F) **grandes personnes**

S) **personas grandes**

E) grown-ups

G) große Leute

J)おとな

1 - 1

問題点) 多義性はどこで区別されるのか (副詞の場合)

仮説) 一つの語に多義が潜んでいる場合、単義にへと収斂させる方法はあるのだろうか?

考えられるのは、アクセント処理、語順処理が考えられるのではないか?

1ページでは *une fois* が 英語では *once* で訳されているのだが、辞書に共通して「いつか」という訳語が載せられている。「いつか」という日本語の立ち戻って考えると、「いつか」には過去にも未来にも用いられうる表現である。いつか見たことある (過去の回想)、いつか一緒に行こうね (未来) といった具合にである。フランス語において、ロワイヤルでは三つの語義分類 1. 一度 2. かつて、昔 3. いつか、ある日 (*une fois ou l'autre*) になっているのだが、小学館ロベールでは 1. いつか 一度 2. (古・地域) かつて、昔 3. (ベルギー) さあ 大修館新スタンダードでは 1 一度、いつか、ある日 2. (古・方言) かつて 3. まあ、ちょっと (*donc*) という分類である。フランス語では文脈依存で多義を単義へと集約せざるを得ないが、英語・独語は英語では副詞の位置とアクセントによって、「かつて」と「一度」を区別し、独語ではアクセント位置でそれを区別するようである。

プログレッシブ(小学館)では

「以前」の意味では文頭または動詞の前に来ることが多く過去時制で用いる。また1度という区別するために通例無強勢で発音される。*once a week*などの場合を除いて文尾にくることが多い。

ドイツ語不変変化詞辞典(白水社)では

一度と倍数 (一倍) の時は *einmal* の *ein* にアクセント。と注記がある。それ以外は *einmal* の 2 音節ともアクセントを置くか、*mal* にアクセントを置くかになる。

課題) アクセントと位置変動で多義を区別する例を見つける

アクセントのある場合とない場合の意味の差ごとに列記する。

aber

schon

doch …よ なんとんでも

endlich 有限で やっと

verschiedene さまざまな 違った

1 - 1

問題点

ドイツ語の枠外し構造は、どのような条件で枠外にでるのか？

枠外し構造（ドイツ語との対照）

F) Ça représentait un serpent boa qui avalait un fauve.

E) Representaba una serpiente boa que se tragaba a una fiera.

E) It showed a boa constrictor swallowing a wild beast.

E) It was a picture of a boa constrictor in the act of swallowing an animal.

G) Es stellte eine Riesenschlange dar, wie sie ein Wildtier verschlang.

J) それは一びきのけものを、のみこもうとしているウワバミの絵でした。

枠外し（1 - 5にもあり）

F) J'ai alors dessiné l'intérieur du serpent boa, afin que les grandes personnes puissent comprendre.

S) Dibujé entonces el interior de la serpiente boa a fin de que las personas grandes pudiesen comprender

E) So then I drew the inside of the boa constrictor, for the benefit of the grown-ups.

E) I drew the inside of the boa constrictor, so that the grown-ups could see it clearly.

G) Ich habe dann das Innere der Boa gezeichnet, um es den großen Leuten deutlich zu machen.

J) こんどはこれなら、なるほどわかってくれるだろう、と思ってウワバミのなかみをかいてみました。

枠外し(1 - 6にもあり)

F) Les grandes personnes m'ont conseillé de laisser de côté les dessins de serpents boas ouverts ou fermés, et de m'intéresser plutôt à la géographie, à l'histoire, au calcul, et à la grammaire.

S) Las personas grandes me aconsejaron que dejara a un lado los dibujos de serpientes boas abiertas o cerradas y que me interesara un poco más en la geografía, la historia, el cálculo y la gramática.

E) The grown-ups now advised me to give up drawing boa constrictors altogether, from the inside or outside, and devote myself instead to geography , history , arithmetic and grammar.

E) The grown-up's response , this time , was to advise me to lay aside my drawings of boa constrictors, whether from the inside or the outside, and devote myself instead to geography , history , arithmetic and grammar.

G)Die großen Leute haben mir geraten, mit den Zeichnungen von offenen und oder geschlossenen Riesenschlangen aufzuhören und mich mehr für Geographie, Geschichte, Rechnen und Grammatik zu interessieren.

J) おとなの人たちは、外がわをかこうと、内がわをかこうとウツバミの絵なんかはやめに  
して、地理と歴史と算数と文法に精をだしなさい、といました。

1 - 6

F) Les grandes personnes ne comprennent jamais rien toutes seules, et c'est fatigant , pour les enfants , de toujours et toujours leur donner des explications.

S) Las personas grandes nunca comprenden nada por sí solas y es casador para los niños tener que darles siempre y siempre explicaciones.

E) It is exhausting for children always and forever to be giving explanations.

E) It is tiresome for children to be always and forever explaining things to them.

D) Die großen Leute verstehen nie etwas von selbst, und für die Kinder ist es zu anstrengend, ihnen immer und immer wieder erklären zu müssen.

J) おとなの人ってものは、よくわけを話してやらないと、わからないのです。

除外し (Ausrahmung) として考えられる条件

- 1) zu不定詞句
- 2) 長い関係文

### 3) 比較構文

なお比較構文では、現代語では枠外しが主流である。

Er ist genau so schnell wie ich gelaufen. よりもEr ist genau so schnell gelaufen wie ich. の方が現代語らしさがあり、前者は古典的用法とされている。

#### 1 - 1

冠詞選択をめぐる問題

問題点

冠詞における定・不定の条件付けは個別言語でどのように違い、ロマンス・ゲルマンの枠組で広く相対化できるのだろうか？

F) Voilà la copie du dessin.

E) He aquí la copia del dibujo.

E) Here is a copy of the drawing.

G) Hier ist eine Kopie der Zeichnung.

J) これが、その絵のうつしです。

#### 1 - 2

問題点

フランス語のonの処理がどのようにされ、テーマ化とどういう関連を持っているのか？

F) On disait dans le livre:

S) El libro decía:

E)In the book it said:

E)In the book it said:

G)In dem Buch hieß es:

J)その本には... と書いてありました。

#### 1 - 2

問題点

日本語らしさとしての擬態語・擬声語の使用と外国語表現

F) Les serpents boas avalent leur proie toute entière ,sans la mâcher.

S) Las serpientes boas tragan susu pressas , sin masticarlas.

E) Boa constrictors swallow their prey whole, without chewing.

E) Boa constrictors swallow their prey whole , without chewing it.

G) Die Boas verschlingen ihre Beute als Ganzes , ohne sie zu verbeißen.



ぺろっ (日英擬音・擬態語活用辞典 金星堂)

あの老人は、卵の黄身をぺろっと飲み込んだ。

That old man drank down the egg yolk in one gulp.

あいつは食いしん坊だね。肉を一切れぺろっと一口に食べてしまう。

He eats like a pig. He swallows a slice of meat at a single gulp.

1 - 2

問題点

翻訳家の好みのレベルにとどまって、考察対象になりにくい問題はどのような場合が考えられるか？その場合を、問題化できるものとどのように区別できるのか？

F) Les serpents boas avalent leur proie toute entière, sans la mâcher.

S) Las serpientes boas tragan sus presas enteras , sin masticarlas.

E) Boa constrictors swallow their prey whole without chewing.

E) Boa constrictors swallow their prey whole without chewing it.

G) Die Boas verschlingen ihre Beute als Ganzes , ohne sie zu zerbeißen.

J)ウワバミというものは、そのえじきをかまずに、まるごとぺろりとのみこむ。

ここで指摘できることは、総称を表す定冠詞複数は、必ずしも必要ではないし、英語の **chewing** の目的語の有無、「えもの」という語をめぐる単複の概念は、フランス語原文では単数集合名詞であり、英訳はそれを単数の目的語 (it) で受ける場合と、目的語無し、ドイツ語は複数で受けて、スペイン語でも複数でうけている。

ここでは、原語の影響をどれくらい受け、またどれくらいまでなら独立して、影響から逃れられるのか？が問題になる。

以下の文は文構造の継承を完全に受けているものと、そうではないものの例である。

F) Ils dorment pendant les six mois de leur digestion.

S) duermen durante los seis meses de la digestion.

E) They digest by going to sleep for six months.

E) They sleep through the six months that need for digestion

E) They sleep during the six months of their digestion.

G)(und) schlafen sechs Monate, um zu verdauen

J) 半年のあいだ、ねむっているが、そのあいだに、のみこんだけものが、腹のなかでこなれるのである。

英語3 (Harcourt、2000年版) は完全にフランス語そのままの構造を継承しているのだが、それ以外はそれぞれに文意を読み取り構造を異ならせている。このような文同士を比べて訳者の好みとしか言えず、文法解析の対象にはならないように思われる。

1-2

問題点 フランス語の代名動詞はどのように翻訳され、各個別言語でどのような動詞処理がなされているのだろうか？またフランス語自身が代名動詞で表現されていないが、他言語で代名動詞を用いている場合も考察してみる。

F) Ensuite ils ne peuvent plus bouger.

S) Luego no pueden moverse.

E) Afterwards they are unable to move,

E) After that they are not able to move,

G) Daraufhin können sie sich nicht mehr rühen

J) すると、もう動けなくなって

フランス語bouger代名動詞se bougerと比べ、用法では自動詞bougerの方が一般的である。しかし、スペイン語moverは英語moveと同語源であり、英語では再帰をとらない一方でスペイン語では代名動詞である。

課題)

ロマンス語の代名動詞とゲルマン語の動詞処理について例を集める。

観点1) ロマンス・ゲルマンの枠組みでお互いに再帰的構造をとりうるのか？

観点2) 同語派内でのズレがあるかどうか？

観点2) 英語は再帰が少ない言語と言えそうなのかどうか？

1-3

問題点

ヨーロッパ諸語：語彙の文法性の決定

外来語がどのように各言語で受容されるのか。文法性をめぐってその決定プロセスを考察する。新語に対する受容認識はどうなっているのか。

1 - 3

F) la jungle

S) la selva

E) jungle

G) der/die/das Dschungel

J) ジャングル

1 - 9

F) le bridge

S) el bridge

E) bridge

G) das Bridge

J) ブリッジ

F) l e golf

S) el golf

E) golf

G) das Golf

J) ゴルフ

ドイツ語では3性どれでも可能であると記載

課題)

文法性のある言語では外来要素に対してどのような認識をもって文法性の決定に至っているのか？英語が仏・西・独に借用される際の文法性決定条件についてを調べる。

1 - 3

問題点

語群形成の段階について整理すべきことがあるのではないか。(語彙的統辞に関して)

1) 連語 2) 熟語 3) 慣用句 についての目安はどこで判断できるだろうか？

1 - 4

問題点

フランス語条件法の言語間処理

- F) Pourquoi un chapeau ferait-il peur?
- S) ¿Por qué habrá de asuntar un sombrero?
- E) Why would a hat frighten anyone?
- E) Why should any one be frightened by a hat?
- G) Warum sollen wir vor einem Hut Angst haben?
- J) ぼうしが、なんでこわいものか？

1 - 5

問題点

comprendreという動詞を設定できるかどうか？（動詞登録の一般問題）

動詞の登録をどのようにしたらいいのか？省略を省略とみなせる段階は動詞のどういう設定があって初めて可能なのだろうか？

- F) J'ai alors dessiné l'intérieur du serpent boa, afin que les grandes personnes puissent comprendre.
- S) Dibujé entonces el interior de la serpiente boa a fin de que las personas grandes pudiesen comprender
- E) So then I drew the inside of the boa constrictor , for the benefit of the grown-ups.
- E) I drew the inside of the boa constrictor , so that the grown-ups could see it clearly.
- G) Ich habe dann das Innere der Boa gezeichnet , um es den großen Leuten deutlich zu machen..
- J) こんどはこれなら、なるほどわかってくれるだろう、と思ってウツバミのなかみをかいてみました。

問題点

1 - 6

前置詞の繰り返しをめぐる問題

F)Les grandes personnes m'ont conseillé de laisser de côté les dessins de serpents boas ouverts ou fermés, et de m'intéresser plutôt à la géographie, à l'histoire, au calcul, et à la grammaire.

S)Las personas grandes me aconsejaron que dejara a un lado los dibujos de serpientes boas abiertas o cerradas y que me interesara un poco más en la geografía, la historia, el cálculo y la gramática.

E) The grown-ups now advised me to give up drawing boa constrictors altogether, from the inside or

outside, and devote myself instead to geography , history , arithmetic and grammar.

E) The grown-up's response , this time , was to advise me to lay aside my drawings of boa constrictors, whether from the inside or the outside, and devote myself instead to geography , history , arithmetic and grammar.

G)Die großen Leute haben mir geraten, mit den Zeichnungen von offenen und oder geschlossenen Riesenschlangen aufzuhören und mich mehr für Geographie, Geschichite, Rechnen und Grammatik zu interessieren.

J)おとなの人たちは、外がわをかこうと、内がわをかこうとウツバミの絵なんかはやめにし  
て、地理と歴史と算数と文法に精をだしなさい、といました。

課題) 島岡 (フランス語統辞論 p 8 2 6) に挙げられるブリュノの定義についての理解が  
必要。